

令和4年度 第7回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ（株）

【実施日時】 令和5年3月4日(土)

13:15～16:45

【実施概要・コース】

今回は、梅の時期に合わせて、梅園でも有名な中山寺から、あいあいパーク、雲雀丘花屋敷を訪れました。当日は、ようやく春めいた天候となった中で、51名が参加しました。

まず、JR中山寺を出発し、中山寺参道の商店街を抜けて、中山寺を参拝しました。そして、ちょうど見ごろを迎えた梅園を巡りました。



見どころ1 中山寺

古くから安産のお寺として知られ、皇室をはじめ、源頼朝、豊臣秀吉などの武家からも篤く信仰を集めた中山寺。聖徳太子が創建した日本最初の観音霊場と伝えられ、西国三十三所24番札所となっています。安産祈願のほかにも、子授け、お礼参り（母子息災）、初参り（お宮参り）、七五三などのご祈禱が受けられます。境内には再建されたばかりの五重塔もあって見どころ沢山あります。



また、阪急中山観音駅から下車すぐの場所にあり、境内にはエスカレーター、エレベーターも設置されています。

■ 毎月18日に御本尊を御開帳

中山寺の御本尊と左右の脇侍はいずれも十一面観世音菩薩であり、三体合わせると三十三面となります。これは西国三十三所各札所の観音菩薩を象徴しているといわれています。普段は秘仏となっていますが、毎月18日の御縁日には御開帳され、そのお姿を拝見することができます。

■ 安産の寺

古くは豊臣秀吉がお参りして秀頼を授かったといわれ、幕末には明治天皇のご生母中山一位の局が安産祈願をされ、御平産されたことから明治天皇勅願所となりました。

古来から着帯の吉日は戌の日とされており、腹帯を授かりに多くの妊婦さんがお参りに来られます。戌の日は、中山寺のホームページに掲載されている「戌の日カレンダー」で確認できます。また、お参りに行けない方のために中山寺では郵送でもご祈禱を受け付けています。

■ 中山寺の梅

中山寺といえば梅の名所としても知られています。見頃は3月上旬から。中山寺西側の中山観音公園に千鳥紅梅、鹿児島紅梅、白加賀、玉梅、豊後、摩耶紅梅など約1,000本の梅の木が植えられていて、入園無料でどなたでも観梅を楽しめます。ほかにも桜や白い藤棚、蓮の花も魅力的。奥之院にかけては紅葉も見事で、四季を通じて美しい風景が楽しめます。

(参考:宝塚市国際観光協会 HP

<https://kanko-takarazuka.jp/special/nakayamadera/>)



続いて国道176号線に戻り、日本三大植木産地の一つで宝塚の山本地区にある、イギリスの美しい地方都市サリーの17世紀頃のたたずまいを再現したあいあいパークと、その前にある英国式庭園を訪れました。グリーンショップ、見本庭園、ライブラリーカフェ、ベーカリーカフェなどからなる「あいあいパーク」での小休止は、次の見学地の開館時間の関係で少々あわただしくなりました。



見どころ2 あいあいパーク・英国風庭園

英国を感じる、花と緑のテーマパーク、花と緑の情報発信ステーションとして、1000年の伝統を持ち日本三大植木産地の一つである山本に平成12年4月オープンした「あいあいパーク」の建物は、白地に濃茶の木組みで、設計から資材に至るまでをイギリスに依頼。主軸となるオーク材は、イギリスから輸入しています。こうして建てられた建物は、田園地帯にある地方都市サリーの17世紀頃のイギリス旧家を再現しています。



中には、グリーンショップ、見本庭園、ライブラリーカフェ、レストランなどがあり、ガーデングッズや生活雑貨の購入、各種園芸教室、緑の相談なども行われています。

■英国風庭園(山本新池公園)

敷地内の南側にある山本新池公園には、バラ園やハーブ園などがある「英国風庭園」があります。ベンチに腰掛けて庭園を眺めているだけで、イギリスに旅行している気分になります。また、「英国風庭園」のほかに、「日本庭園」や「バラのアーチ」「森林園」に「芝生広場」など、様々な雰囲気の場所があります。

(参考：宝塚市国際観光協会 HP <https://kanko-takarazuka.jp/special/nakayamadera/>,
トラベル.jp <https://www.travel.co.jp/guide/article/17415/>)

この後、最後の見学場所の大正時代に開発された住宅地に豪華な邸宅が軒を連なる雲雀丘花屋敷に向かいました。

最後に、雲雀丘花屋敷の旧安田邸の前で、雲雀丘花屋敷の歴史の説明を聞いた後、希望者は、数分間、急坂を上って、高崎記念館の庭園を見学し、ハイキングは無事終了しました。



見どころ3 国登録有形文化財 高崎記念館

「高崎記念館」は、1923年(大正12年1月)に医学博士 諏訪瑩一氏の住宅としてウィリアム・M・ヴォーリスの設計により建築され、1929年(昭和4年)より当法人の設立者である高崎達之助の住居として使用されていました。ひときわ大きな椰子の木は記念館のシンボルとなっています。

この建物には、ヴォーリス建築の代表的なスタイルの一つである、木造2階建て腰折れ屋根のコロニアルスタイルの特色がよく表現されています。

1938年(昭和13年)に現在の玄関部分が増築された他、幾度も改築されましたが、老朽化が著しくなったので、1989年(平成元年)に原型のヴォーリス建築の保存を主目的とした全面的な改修工事が実施され、現在に至っています。

「高崎記念館」は、戦後の一時期進駐軍の接收を受ける等の歴史的な側面を有しています。数件あったヴォーリス建築は、現在はこの高崎記念館だけになっています。

(参考：国登録有形文化財 高崎記念館HP <https://takasaki-ts.com/intro>)



見どころ4 雲雀丘花屋敷のまちなみ

雲雀丘は、宝塚市の東端、川西市と接する長尾山系の南側斜面に開けた住宅地です。明治時代には果樹栽培が行われたりしていたこの地域が住宅地として開発されるきっかけは、1910(明治 43)年、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）が梅田―宝塚間を開通させたことにはじまります。

大正時代になると第一次世界大戦の好景気を受けて、阪神間に土地開発ブームが起き、私鉄沿線を中心に宅地開発が広がります。ここ雲雀丘の住宅開発は、阿部元太郎が1915(大正 5)年に10万坪の土地を購入したことに始まり、翌年から逐次宅地開発が進められていきました。

「雲雀丘」という名前は、西に流れる滝ノ谷川にある「雲雀の滝」にちなんで、阿部がつけたといわれています。最初に設置された花屋敷駅から数百m離れた位置に設けられた雲雀丘駅は、住人の利便をはかるため、阿部が設置したものです。(1961(昭和36)年、雲雀丘駅と花屋敷駅が合併されて、雲雀丘花屋敷駅となりました。雲雀丘駅は、現在の雲雀丘倶楽部の位置にありました。)

■ 旧安田邸

1921(大正 10)年に建てられた木造3階建ての洋館で、宝塚市の都市景観形成建築物に指定されており、「ひょうごの近代住宅 100」にも選定されています。この建物は、三井物産に勤めていた安田辰治郎氏の邸宅で、渡米経験で見聞したアメリカの住宅を手本に、自身で設計されたものです。この建物の所有者だった辰治郎氏の娘敏子さんが亡くなり、その遺志により、2010(平成 22)年、宝塚市に寄贈され、今は、宝塚市が管理しています。



(参考：ひょうごヘリテージ機構HP <https://hyogoheritage.org/>旧安田邸の活用を考えるシンポジウム報告)

令和4年度第7回ハイキング(中山寺と梅園、あいあいパーク・英国式庭園、雲雀丘花屋敷)の行程図 (地理院地図より)

